

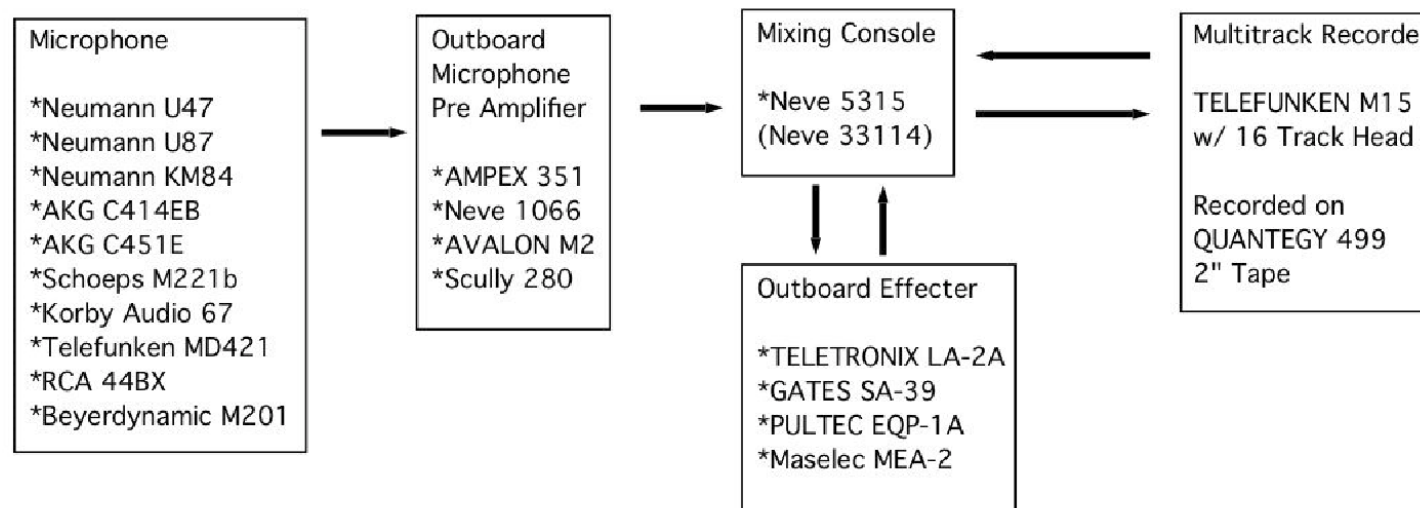
# 主要録音機器

MULTITRACK RECORDER: TELEFUNKEN M15 W/16 TRACK HEAD

MASTER RECORDER: AMPEX 351

RECORDING AMPLIFIER: TELEFUNKEN M21

## Recording



録音・カッティングエンジニア：松下真也さん



録音に使用したマルチトラックテープレコーダー  
(TELEFUNKEN M15 w/ 16 Track Head)

伴さんのクリアーで柔らかい声の魅力を引き出すために、レコードとCDの音源は、デジタル操作を一切入れないフルアナログ録音で作りました。



Piccolo Audio Works のカッティングマシーン  
WESTERN ELECTRIC RA-1389  
(カッティングエンジニアの松下真也さんにより改良されている)





録音調整する松下真也さん



マスターテープ用テープデッキ AMPEX 351



スタインウェイのピアノ



スタジオ・コンソール前の伴真純さん





ピアノの小林ちからさん



ピアノの古高晋一さんと伴さん



ピアノの瀧田亮子さんと伴さん



ピアノの浅見陽子さん





ボーカル録音室の伴さん



ベースの店網邦夫さん



ドラムスの大野孝さん



バイオリンの吉久亜紀さん

そのほか、 ピアノの飯田敏明さん、ヴァイオリンの高木弾さん、チェロの富田千晴さん

# スタジオ録音 立合いの記

伴真純友の会世話人 日向直規

いやー、生まれて七十何年、こんな経験は初めてです。…「フルアナログ録音だから少しの失敗も許されない」という演奏者の緊張感とプロ意識に私自身も身震いし、しかし伴さんの歌に直接長時間接する喜びに浸り、音楽というものの素晴らしさに酔い、伴さんを始め伴奏の皆さんの音楽に対する熱意に感心し、若いスタジオエンジニアのプロ姿勢に感心し、(総じて)皆さんの『いいものづくり』への飽くなき挑戦に感動!! …とにかく言葉では言い表せない、言い尽くせない経験をさせていただきました、単に私が「伴真純友の会世話人」と言う(役得?)だけで。

場所は東京都豊島区上池袋の「スタジオ・デデ」。曲数は13。録音は2019年10月15,16,27日の3日間で合計20時間超。主役は勿論、伴真純さん。伴奏者は曲により異なり延べ10人以上(ピアノ、バイオリン、チェロ、ベース、ドラム…。同じピアノでも曲により演奏者が変わるという状況)。レコーディングエンジニア(RE)2人。ミキシング(mixing)は11月4日で9時間。立合いには勿論、発起人の浅香氏も。

さて、録音とミキシングの流れを聞きかじり&見かじりで以下、申し上げます。(素人ゆえに、間違っていたらごめんなさい。)

- ①伴さんと楽器演奏者はガラス窓越しに他の演奏者の姿を見ることができる防音室に入り(2,3の楽器は同じ防音室で演奏する場合もある)、各々ヘッドフォンで自分と他の音を聞く。
- ②録音スタート等の合図は主REが行い、副REがテープを回す。そのテープは16トラック(16の異なった音を録音できる。今回の場合は防音室の数÷伴さんの歌+楽器の数)。テープ幅は2インチ(50.8mm)と、とてつもなく広い。
- ③指揮者(音頭取り)を合図に音楽スタート。指揮者は伴さんだったり、ピアニストだったり。

- ④演奏が終わったら全員でREの部屋に移り、大きなスピーカーで録音を聞く。一回でOKはまず、ない。必ずと言ってよいくらい録音のやり直し。間違え、自分や他の演奏に不満、演奏後に新たな気付き、など…とにかく完璧でないと満足しない。他の演奏者が「いいんじゃない？」と言っても妥協しない。例えば今回の最高は10回近く演奏のやり直し、OKが出るまでにかかったのが何と3時間という曲もあった。ここのところがさすがに「プロ」ですね。

さて、ここで重要なのは、録音のやり直しをしなければならないのは「フルアナログ」だからで、これがデジタルなら切った貼った、音質、音量、音の高低、残響など自由に変えることができるようです(もしかしたら私の拙い歌を某オペラ歌手が歌ったように変えることができるのかなあ?《冗談》)。…但し、フルアナログでも“少し”変えることができますが。

- ⑤録音完了後に「ミキシング」と言って(「トラックダウン」とも言うそうです)、16トラックのテープ(16トラック全てに録音されている訳ではないですが)を2トラック(いわゆるステレオ)に移行させる作業がありました。テープの巾は2トラックだから狭くなっています。アナログでも音質、音量、音の高低、残響など“少し”変えたいところがあるとすれば、この段階だそうです。
- ⑥次にスタジオで2トラックのテープをもとに溝の無いレコード盤(の前の段階の盤)に「カッティング」と言う作業を施し、その後、これをレコード製作会社に持ち込み、レコードにしてもらいます。同時にジャケットも重要です。伴さんの写真、説明文、曲の歌詞などを今、準備中です。

以上です。